

0.16%

褥瘡発生率

測定値の定義・計算方法

Outcome 分子：

d2（真皮までの損傷）以上の院内新規褥瘡発生患者数

分母：

同日入退院患者または褥瘡持込患者または調査月間以前の院内新規褥瘡発生患者を除く入院患者延べ数（人日）

活動のきっかけ

褥瘡は、疼痛などにより患者のQOLの低下をきたすとともに治療が長期に及ぶと、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながる。

褥瘡予防対策を多職種と協同し重点的に取り組み、褥瘡発生を抑えることで患者のQOLの維持や退院後の安定した生活へと繋げることができるため、取り組んでいく必要がある。

改善活動部門

- 形成外科
- 看護の質向上室
- 救命救急センター病棟

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
- お尻まわりの予防的スキンケアがなかなか定着しなかったが、各病棟のスタッフから意見を聞きスキンケア用品の見直しから行い、ポスター等による啓蒙活動等や師長、主任、褥瘡対策ミーティングメンバーの協力を得て、予防的スキンケアが実践できるようになっている。褥瘡発生率も取り組み後より低減している。 - 高機能エアマットレスの台数を増やしタイムリーに患者の療養環境を調整できるようになった。	- 予防的スキンケアが継続して行えるように引き続き、スタッフ教育と病棟の褥瘡対策を中心に引っ張っていく人材の育成が必要と考える。 - 高機能マットレスが必要な患者にたいし、マットレスの挿入がされていない現状があるため、体圧分散寝具選択基準のマニュアルをもとに再度スタッフ教育が必要と考える。